

松江市 報道提供資料

令和 7 年 8 月 28 日

件名 【市長表敬訪問】松江藩籐細工八代 川口淳平氏 2025 金沢・世界工芸コンペティションで大賞を受賞

内容

松江藩籐細工八代 川口淳平氏(米子在住)の〈錆籐網代編玄籠 枝道〉が、2025 金沢・世界工芸コンペティションで大賞を受賞されました。同コンペティションは、「工芸の新しさ」を世界へ発信するため、「工芸の世界で培われてきた技術を活かし、卓越したコンセプトやアイデアによって生まれた表現力豊かな芸術作品」を公募したものです。本作は、伝統技術を駆使しながら素材のしなやかさを活かした現代的な造形が高く評価されました。

長崎家の籐細工は松江藩の料理方であった長崎仲蔵が江戸で籐細工を始めました。この江戸時代の技法を現代に伝えるのが長崎家です。川口氏の師匠であり、当代である六代長崎誠氏は平成 16 年(2004)に「松江藩籐細工」として、島根県ふるさと工芸品の指定を受けました。川口氏は、令和 6 年(2024)には、工芸品や民芸品で高度な伝統的技術を持つ方が受賞する鳥取県伝統工芸士に認定されました。

日 程 令和7年(2025)9月2日(火) 11:35～11:50

会 場 松江市役所 市長室

【問い合わせ】

文化スポーツ部 松江歴史館 担当：大多和・大島

電話：0852-55-5511

川口 淳平 (かわぐち じゅんぺい)

平成10年(1998)、20歳のころから広島県三原市で革の鞆の製造を始める。

平成18年(2006)、鳥取県米子市でミントチュチュレザーを開店。

平成21年(2009)から六代 長崎誠氏に師事し、本来は一子相伝だった「花結び」の技術を教わり、平成25年(2013)に8代目を襲名。現在、国展や鳥取

県展で入選しているほか、米子市の工房で制作する籐のかばんなどが国内外で注目されている。昨年、令和6年(2024)には、工芸品や民芸品で高度な伝統的技術を持つ方が受賞する鳥取県伝統工芸士に認定された。

《銹籐網代編玄籠枝道》が2025金沢・世界工芸コンペティションで大賞を受賞。



2025 金沢・世界工芸コンペティション 第6回金沢・世界工芸トリエンナーレ

金沢市では1989年から「金沢工芸大賞コンペティション」を開催するとともに、1995年の「世界工芸都市宣言」以降、世界に向けた工芸文化の継承と発信のため、「世界工芸都市会議・金沢」や、「世界工芸コンペティション」を開催。

「金沢・世界工芸コンペティション」は、金沢から“工芸の新しさ”を世界へ発信する国際コンペティションである。工芸の世界で培われてきた技術を活かし、卓越したコンセプトやアイデアによって生まれた表現力豊かな芸術作品を公募する。

今や工芸における世界的な公募展のひとつで、金沢・世界工芸トリエンナーレの公募展で入選されることで日本内外から注目される。受賞作品は、金沢21世紀美術館市民ギャラリーで開催する第6回金沢・世界工芸トリエンナーレにて展示。(会期：11月8日から26日)

審査員

- ・モニカ・ビンチク (アメリカ) メトロポリタン美術館アジア美術部日本工芸ディレクター・アーサー・アビー・キュレーター
- ・チョ・ヘヨン (韓国) 韓国アート・アンド・デザイン協会会長
- ・林曼麗 (台湾) 国立台北教育大学名誉教授、元国立故宫博物院院長
- ・唐澤昌弘 国立工芸館長
- ・青柳正規 石川県立美術館長、元文化庁長官
- ・山村慎哉 金沢美術工芸大学学長
- ・中川衛 金工作家、重要無形文化財「彫金」保持者
- ・十一代大樋長左衛門 (年雄) 日本藝術院会員、ロチェスター工科大学客員教授

参考 全国の主な工芸公募展

日本伝統工芸展

日本民藝館 新作工芸公募展 ほか多数